

「日本に向けていい話題を提供したい」

倉本昌弘PGA会長、全米プロシニアで粘闘！



この日は石川遼もクラウンプラザインビテーションナル・アット・コロニアル(5月21〜24日、米国テキサス州/コロニアルCC)で初日を首位タイ発進。頑張ろうぜ、日本！



「(練習ラウンドも含めて)3ラウンド連続でプレーしたのは昨年の11月以来。マチュアみたいだけど、手が痛い(笑)」(倉本)

「こうやって会長自ら選手としても活躍するのは、日本に向けていい話題が提供できるのでは、と思っております。だから、最後までベストを尽くしますよ。この1アンダーを守っていれば、優勝も可能だと思います。」

自信はないですけど、首位キープはあり得ますから」

チャンピオンズツアーのメジャー第2戦・全米プロシニア選手権(5月21〜24日、米国インディアナ州/ビート・ダイC・アット・フレンチ

リック)で、日本プロゴルフ協会(PGA)会長も務める倉本昌弘が初日を1アンダーでまとめて首位発進。PGAが主催である日本プロゴルフ選手権大会・日清カップヌードル杯が終了して、すぐに現地入り。しかも、

ビート・ダイ設計の難コースが相手だったが、まさしく粘り強い戦いで唯一のアンダーパーをマークした。「昨年、PGAの会長になって以来、練習もほとんどできません。東京で打ち合わせや会議があったりで、広島の家に戻るのには1カ月で2回ぐらいですね。それでもコースを眺めて、どうやってボールをグリーンに止めるか、どうやって2パットで収めるかを考えた。雨が降ったり、グリーンが重かったことも辛かったです」と好スコアの要因を語る一方で、ビジネスの話題が頭から離れない様子。「米国で最近発表されたように、ヨーロッパと米PGAツアーが協力体制を築くようですが、日本でもゴルフ界が力を合わせてできることを進めています。新規ゴルフファンの開拓やジュニア育成、ゴルフビジネスの活性化といったたくさんの方々のテーマがあり、一つずつ向き合っていきたい」

確かに倉本が海外で活躍すれば、日本のPGAの地位向上にもつながる。戦う会長が、まさしく日本のゴルフ界を引っ張る構えだ。